

東京バッハ合唱団 月報

[第 603 号] 2012 年 9 月号

〒156-0055 東京都世田谷区船橋 5-17-21-101 郵便振替：00190-3-47604
Tel：03-3290-5731 Fax 専用：03-3290-5732
mail: bachchortokyo@aol.com http://www2.tky.3web.ne.jp/~bach/chor/

BACH-CHOR, TOKYO

Monthly Newsletter No.603

September 2012

5-17-21-101 Funabashi,
Setagaya-ku, Tokyo

世田谷中央教会での最後の練習 20年間、ありがとうございました。

7月28日(土曜日)は、世田谷中央教会での最後の練習となりました。9月からは荻窪教会に移ります。

『東京バッハ合唱団40年の記録』の、団員・山下広之氏編「歴史年表」によると、1993年1月9日(土)の項に、「土曜日の練習場が本日より世田谷YMCAから桜新町の世田谷中央教会に移転」とあります。実に20年の長きにわたり、礼拝堂を練習会場としてご提供くださったこととなります。

ついでに、同「歴史年表」によって、練習会場の変遷をたどってみます。

今から50年前の1962年7月1日(日)に、当時の住居表示で世田谷区上北沢1丁目、現在の桜上水2丁目の森井眞氏宅の居間で始まった「バッハ合唱団」の練習はすぐに団員があふれて、その年のうちに増築[1階居間の拡張]が始まったのだそうです。

翌1963年1月、「銀座美術家会館ホールで月曜日夜の練習が開始され、練習は日曜日とあわせ週2回となる」。同年11月「月曜の練習場を目白の徳川講堂に移転。銀座の目抜き通りのホール代はさすがに使用料が高く、負担になっていたのがこれにより軽減された」。

ついで1964年の5月に「月曜の練習場を目白聖公会に移転する。辻荘一氏のご紹介によるもの。以降現在までここで練習を継続している」。

1968年7月1日、「桜上水練習場増築完成[2階に20坪の専用練習場]。創立6周年を兼ねた完成祝賀会を新練習場で開催。最中に大きな地震に見舞われ、出

席者全員総立ちとなったが練習場はビクともせず、全員安堵の息とともに新たな自信がついた」。

[1975年頃? 日曜日の練習が土曜日に変更]

1981年5月、(月曜の)「練習場を一時的に目白の武蔵野教会へ移す(目白聖公会集会場の改築のため)」。

[1980年代、土曜日の練習会場が、経堂すずらん通りの世田谷YMCAに移る]

以上のような経緯をへて、桜新町サザエさん通りの「世田谷中央教会」は、創立後31年から50周年にいたる多事多難の20年間の拠り所として、私たちの活動を支え、見守り続けてくださいました。練習場移転に先立つ1988年10月には、第2回ドイツ演奏旅行の演目をもって音楽礼拝にお招きいただいていますし、その後もたびたび、公演会場としても礼拝堂をお貸し下さり、教会員の皆さんにとどまらず、近在の方々にもバッハの音楽をお届けさせていただきました。

最後の練習日となった当日は、現在団員60名ほどのうち43名が出席し、練習終了後に、カンタータ第147番のコラール「イエス わが喜び」(Jesu, meiner Seelen Wonne 第16節)の歌声を、お世話になった礼拝堂に捧げて、お別れをしました。

なお、この日のために、「バッハ・カンタータ50曲選」収載のカンタータ第147番《心と日々のわざもて》から、上記のコラール部分を抜き刷りとしたもの100部を製本し、世田谷中央教会に贈呈させていただきました。聖歌隊の方々、おりおりにお歌いくださいさればと願っております。

20年間、ありがとうございました。



月報ご愛読のみなさま

残暑がつづきますが、気分は「クリスマス・モード」に切り替えていただきましょう。《クリスマス・オラトリオ》前半をメインにお届けする第107回定期演奏会が、2か月後に迫ってまいりました(11月9日、19時開演。杉並公会堂)。

当月報とともに、ご案内チラシと振替用紙をお送りいたしました。チケットのお求めにご利用ください。

団友・後援会のみなさまには、招待状を同封しております。お知り合い・ご友人等お誘いいただき、ぜひご来聴ください。

創立50周年記念企画 [CD & Book]

バッハ宗教歌曲集 [日本語演奏] 名演20選

喜びの日

大村 恵美子

1996年に、念願のバッハ『宗教歌曲集』(シエメルリ歌曲集)の全訳楽譜を出版後、さっそく思い立って、翌1997年の定期演奏会から、アンコールとして独唱者のおひとりに、この楽譜から1曲ずつを歌っていただくことにしました。

その日のオーケストラの中から、チェロとオルガンの伴奏をお願いし、独唱の方々は毎回の快演を聴かせてくださいました。聴衆の皆さんも、2時間ほどの、バッハの対位法的な音楽の構築世界に浸りきったあとで、単旋律の、身近な生活の歌をきくと、さわやかに安堵の息をつける解放感がひろがり、いつもたいへんな共鳴の拍手が沸き起こったのです。

協演のみなさまの支持を得てつづけながら、私は、定期演奏会ごとに1曲1曲と加わるこれらの歌を、いつかある時期の一つにまとめる機会が訪れたら、どんなにすばらしい宝物になることだろうかと、想像をめぐらせました。10数人もの豪華な演奏者たちが一堂に会する夢のような1枚のCD。これを、創立50周年の記念品として、同志の方々に分かち合えたら――。

具体化するのに多くの困難はありましたけれど、私の夢を実現させるために、合唱団の多数の同労者が、昼夜を分かたぬ献身的な作業で、ついに7月8日の記念会にゴールインさせてくださいました。いまは天にも昇らんばかりの喜びに、私は包まれています。おめでとう！の一言です(2012年7月8日)。

(「バッハ宗教歌曲集【日本語演奏】名演20選」緒言)

CD & Book

バッハ宗教歌曲集【日本語演奏】名演20選

・11名のソリストがうたう夢の饗宴

S: 光野孝子、A: 佐々木まり子・田中奈美子、T: 佐伯雅巳・佐々木正利・平良栄一・鳥海 寮、B: 宇佐美桂一・河野克典・佐々木直樹・渡邊 明

・CD1枚+冊子(通奏低音つき楽譜、日本語/ドイツ語歌詞併載) A4判・24ページ

■Web上のホームページ閲覧者もふくめ、当月報紙上でご覧いただいた方々には、1セット(CD+冊子)1000円の頒布価格(送料とも)でお分けいたします。事務局までお申込みください。郵便振替用紙を添えてお送りいたします。なお発送までに2週間ほどお待ちいただく場合もございます。あらかじめ、ご了承ください。

■団友・後援会員・ファン協力者の皆様には贈呈させていただきます。ともに創立50周年をお慶びいただければ幸いです。CDコピーの出来上がりしだい、順次発送いたしておりますので、しばらくお待ちください。

「バッハ宗教歌曲集 名演20選」製作に携わって

「作曲」と「演奏」の根源を照らす1枚

松尾 茂春 (団員・バス)

大村恵美子先生の訳による「宗教歌曲集」(Geistliche Lieder und Arien aus Schemellis Gesangbuch の訳出。丸善プラネット、1996年。現在絶版)の刊行を意義深く感じて来た私にとって、それが毎回素晴らしいソリストによりアンコールの1曲目として歌われることは定演の楽しみの一つであった。一方それらがライブ録音の末尾に添えられる形で散在する状態を残念に思っていた。そのような中、その録音を1つにまとめ、創立50周年記念CDとしたいという企画を大村先生からご提示いただいた時、喜んで音源編集をお引き受けしたのだった。

その製作過程では予想以上の困難があった。まず音源探し ― これは事務局保管のDATに手持ちのCD等を補完して解決。次にPCへの音源取り込みでは物理・論理レベルで数点の障壁があった。また各曲を並べた際に会場の響きや録音設定の差異から生じる違和感の払拭のための音源調整、一部ノイズの低減など課題には事欠かなかったが、作業の中で繰り返し聴く歌声に励まされつつ進めることができた。

ところで、この歌曲集の旋律の多くはバッハのオリジナルでないとされているが、それらがバッハ作品としてBWV番号も付与されているのはなぜか ― その疑問の解消として、かつて団主催のゼミナールで辻莊一先生が語られた「作曲」の認識の転換を思い出す。すなわち、現代では何か素敵な旋律1本(加えてコードの付与程度)を書けば「作曲」と呼ばれるが、少な



くともバッハの時代にあつてそれは erfanden（考案、思いつき）と呼ばれ、一方で原旋律のオリジナリティーに関わらず、それを素材に対位法、和声法に則つて構築することが komponieren（作曲する）であるという。それはバッハのカンタータをはじめとする作品で既存の素朴なコラールが緻密な四声体として、さらには壮大なコラール・ファンタジーとして輝きを放つていて示される。宗教歌曲集も同様に、バッハが与えた通奏低音により erfanden は komponieren になり、旋律により深く躍動的な命が与えられたといえよう。

譜面上、一見単純そうな楽曲は、かえつて演奏が難しい。それを大曲の力演の後に、幅広い表現力で歌われたソリストの方々の力量に改めて感服する。演奏される機会の少ない名曲の、多彩なソリスト陣による日本語での渾身の演奏 — これは価値ある 1 枚と思う。繰り返し聴くほどに作品の奥深さ、声と表現の多様な魅力が相俟つて心に染み入り、信仰の歌として魂に響く。

野尻湖の夏合宿に参加して

小林 順子（団員・ソプラノ）

今年の夏 8 月 2 日から 5 日まで、入団後初めて野尻湖の合宿に参加させていただきました。野尻湖は学生時代以来でしたが、以前と少しも変わらず静かな湖面をたたえておりました。辺りの木々の緑、湖面に沈む夕日、どれをとっても懐かしい気持ちで、少しセンチメンタルな気持ちになったほどです。

その自然の中での合宿ということで、何やら少し若返った気分での練習にも力が入りました。神山教会でのコンサートも控えていたので、団員の皆様も真剣に取り組んでいらっしゃいました。また今回は「黒姫童話館」へも大村先生とご一緒したり、練習の合間の余暇を楽しんだり、充実したひとときを過ごしました。

そしていよいよ神山教会でのコンサート。初めて見るその教会は、外国の方が多い湖畔の避暑地の小高い丘の上に、ひっそりとたたずんでいました。中に入ると素晴らしい絵画に迎えられ、とても落ち着いた雰囲気のある素敵な教会でした。

少しずつ聴衆の方が集まり、ひぐらしの声を遠くに聞きながら、コンサートは始まりました。カンタータ第 111 番の合唱、そしてピアノ独奏。内山さんのピアノは本当に息を呑む演奏で、素晴らしい、の一言でした。そしてクリスマス・オラトリオの合唱。最後には客席から「ブラボー!!」の声が上がるほど会場は一体化して、私もうれしさと感動で胸一杯でした。

今年はロンドンオリンピック開催で、各国の選手が連日熱戦を繰り広げていました。日本人選手が個人 3 連覇するなど活躍していましたが、特に体操、卓球、

水泳など、団体でメダルを勝ち取ったことが印象的でした。何より選手たちが個人で取ったメダル以上に、団体でのメダル獲得を喜んでいる姿が記憶に残っています。

皆で力を合わせ、ひとつのことを成し遂げるのは、言葉で言うよりずっと難しいと思います。それは技術だけでなく、気持ちもひとつに合わせることが大切だからです。団員の方がおっしゃった「いくら良い声でも、一人目立ってはいけけない。全体として美しい響きになる声が望ましい」という一言が心に残ります。合唱は個人の力ではなく団体の力なのだ、とまた新たな発見をさせていただきました。

今回、夏合宿に参加して色々な場面を通して団員の方々とお話ししたり、遊んだり、お酒を飲んだり、普段出来ないことをたくさんさせていただき、親睦をはかることが出来ました。合宿は団員の心をつなぐための準備期間なのかも知れない、ということをお教えたいただいたような気が致します。

初めは少し尻込みしていた夏合宿ですが、終えてみると本当に楽しく感動的なことばかりで、来年もぜひ参加したいと思っております。今年 11 月のクリスマス・オラトリオの演奏会は、声を合わせ、心を合わせ、自身の金メダルになるよう頑張りたいと思っております。お世話になった皆様、本当にありがとうございました。（次ページにコンサートの概要）



写真：上から①弁天島と黒姫山を望む ②黒姫童話館の前庭 ③会場の祭壇画（田中忠雄画）④コンサート風景
（撮影：このページ①③④、および p. 1 の全体写真：松尾茂春氏。
②本田茂樹氏運営の Facebook「Bachchor-tokyo」より引用）

野尻湖コンサート(第 39 回)「真夏のクリスマス」

Mid-Summer 'Christmas' Concert

～ バッハの合唱とグリーグのピアノ音楽 ～

- 日時：2012年8月4日(土)午後4時開演
- 会場：野尻湖・神山国際村(NLA)内、オーディトリウム(旧・神山教会)
- 演奏：[合唱]東京バッハ合唱団、[ピアノ]内山亜希、[指揮/訳詞]大村恵美子
- 主催：東京バッハ合唱団

1. [合唱]

カンタータ第111番《み心は つねに成し遂げらる》
1) コラール合唱、4) 二重唱(A/T)、6) コラール

2. [ピアノ独奏]

グリーグ作曲：組曲《ホルベアの時代から》1) プレリユード、4) アリア、5) リゴドン

3. [合唱]

《クリスマス・オラトリオ》I-III

5) コラール、8) アリアB 斉唱、16) エヴァンゲリスタ天使S 斉唱、17) コラール、20) エヴァンゲリスタT 斉唱、21) 合唱、22) レチタティーヴォB 斉唱、23) コラール、25) エヴァンゲリスタT 斉唱、26) 合唱、34) エヴァンゲリスタT 斉唱、35) コラール、24) 合唱

4. [一緒に] Sing Bach in Each Language!

(ルター作の2曲のコラール(17., 23.)を、日・独・英の3言語で同時に合唱)

創立 50 周年メッセージ

(敬称略)

森井 眞 (元団員・明治学院大学元学長)

東京バッハ合唱団に参加して団員の皆さんと一緒にバッハを歌うことによって、はじめて僕の心に届き、響いたあのバッハの、静かで深く尊い声。それはいつまでも僕の心に生きつづけている。また合唱団での団員方との交わり、僕の人生にとってじつに貴重なものだった交わりもまだ僕の心に宝ものとして活きている。

鳥海 寮 (声楽家・テノール)

創立 50 周年心からお祝い申し上げます。1998 年 5 月の定期演奏会から本当に多くのカンタータを聴かせていただき、毎回驚きや発見とともに、至福の時を過ごさせていただきました。その後ご縁があり、ソロを歌わせていただくことになりましたが、バッハを日本語で歌うことで、身体の底から自然な表現が湧き出てくる体験をしました。そのことにより、いつも自分に正直な気持ちを歌声に託していきたい、と思いつつながら、確信をもって歌い続けることができているように感じます。これからも、バッハ合唱団の温かい響きが、多くの聴衆に感動を与え続けていかれますようお祈りしております。

[前号の同欄(p.5)では、手違いにより、上記お二方のお名前とメッセージ内容とが差し替わっておりました。改めて掲載させていただきます、お詫び申し上げます：編集部]

東京バッハ合唱団 創立 50 周年記念懇親会

—記録—

日時：2012年7月8日(日)13:00~16:30

会場：アルカディア市ヶ谷(私学会館)

<講演>「逆説とはなにか — 宗教より宗教的なもの」…笠原芳光

<記念品>「バッハ宗教歌曲集名演 20 選」(CD&Book)

<50年の功労者に感謝状・花束贈呈>(敬称略)渡邊明(声楽統率・協演)、精木勇(後援会、全活動に積極的支援・参加)、白木博也(同上、特に美術面ご指導)、高野京子(団員、1962年~現在)、加藤剛男(団員、1962年~現在)、大村健二(団員、1970年~現在)

—上記の内、欠席の方のメッセージ紹介—

草間美也子(オルガン協演)、境野達男(定期演奏会の管・打楽器統率)、松井啓子(リ 弦楽器統率)、佐々木まり子(声楽指導・協演)、森井眞(団の理念教導)、青木道彦(後援会、全活動に積極的支援・参加)

<参加者>(敬称略)

テーブル①：精木勇(後)、荒井せつ子(S)、松野晴一、堀甲子(後)、加藤剛男(B)、大村健二(T)、三上裕子(A)

テーブル②：大村恵美子(主宰者)、笠原和子(笠原氏夫人)、笠原芳光(ゲスト講師)、白木博也(後)、高梨公明(団友・春秋社編集部)、山田恵美子(フルート奏者)、渡邊明(声楽家)

テーブル③：岩井健作(明治学院教会牧師)、岩井溢子(笠原氏知人)、須澤由希子+2名(笠原氏知人)、森永毅彦(B)

テーブル④[元/現団員B]：大井忠(菅間氏知人)、笠原維信(後・元)、久保庭重夫、白井均、菅間五郎(後・元)、鈴木常彦、市川義和(後)、小海基(T)

テーブル⑤[元/現団員T]：池口康夫(後・元)、川戸龍夫、水戸英雄、宮城幸義、村山英司、與語基宏

テーブル⑥[元/現団員A]：稲本佑子(後・元)、小野久美、風岡和子、白井昭子、鈴木敬子、高野京子、田口博子、中村美子(後・元)

テーブル⑦[元/現団員S]：飯石明子、梅澤和子、岡本由紀子(元)、小口眞知子、柿沼徳子、小林順子、高濱朗子、百鳥洋子

テーブル⑧[元/現団員B]：岡村隆、千葉光雄、丹羽茂(後・元)、野本哲雄(後・元)、本田茂樹、松尾茂春、八重樫捷朗

※講演のみ出席：星野弥生(後)、荒井元嗣。二次会のみ出席：鈴木正三(団友)

<全員合唱> BWV147 コラール「イエス わが喜び」

<主宰者 閉会・感謝の辞> (二次会 会館隣り「おかってや」約25名 出席)